

安野の地を訪れて

広島市立大学大学院 平和学研究科 岡崎 裕美

8月22日、戦争遺跡保存全国シンポジウム広島大会のフィールドワークで、戦時中に中国人が強制連行され、強制労働に従事させられた地、安野を訪れることができました。中国人の強制連行と被爆について勉強しはじめていた私にとって、初めて現地を訪れる、貴重な機会であった。

広島駅から車で40分ほどの山中に、強制連行の末に完成し、現在も稼働している中国電力安野発電所がある。その敷地に建てられた「安野中国人受難之碑」は想像以上に大きく、その寸法一つ一つにも思いが込められていることを知った。苦難を強いられた人々を思い、静かに手を合わせた。

実際に現地を訪れ、緑と水に囲まれた静かな空気と、過去の重い歴史のギャップを肌で感じた。また、市街地からの道のりを思うと、政治的にも社会的にも、さらには地理的にも僻地に追いやられてきた被害者ひとりひとりに、目を向ける重要性を改めて感じた。

安野発電所は、今でも最大3,000世帯に電力を供給しているという。中国の人々にとっても、日本の私たちにとっても、安野での強制労働は、今に続く問題であるということ、忘れてはならない。

